

韓日両言語の敬語研究 —表現の傾向性を意識した研究の必要性—

金 兌妍

要旨

韓国語と日本語の敬語形式は類似しているが、実際の場面で敬語使用を選択する要因や使用様態は必ずしも一致しないため、様々な観点から対照研究が行われてきた。本稿では、韓国語と日本語の敬語に関する先行研究を取り上げ、韓日両言語の敬語の定義・機能・種類が類似していることを確認したうえで、これまでの韓日対照研究の成果を概観する。その後、それを踏まえて今後の敬語研究で明らかにされるべき点を指摘する。

1. 韓日両言語における敬語

1.1 敬語の定義

敬語とは、他者を自分より上として待遇する際に用いる言語形式である。他者に関する話者の認識が言語に反映する現象は多くの言語に見られるが、韓国語と日本語にはその認識を反映するための一定の言語形式「敬語」が存在し、その選択・不選択の決定を行うことが義務的であるという特徴がある。敬語に関する研究は、韓国語においても日本語においても多く行われてきた。

両言語の敬語研究における敬語の定義は、表1に示されるように、基本的に一致している。ただし、韓国語では、敬語を경어(敬語)以外に경어법(敬語法)、높임법(高め法)、존대법(尊待法)と呼ぶこともある。

表1 韓国語の日本語の敬語の定義^{注1}

	出典	定義
韓国語	남기십・고영근 (1993 : 326)	남을 높여서 말하는 법 (他者を高めて言う法)
	한길 (2002 : 21)	말할이가 말이 이루어지는 데 관여되는 사람에 관하여 적절한 높낮이의 정도를 나타내는 방식 ^{注2} (話し手が話す時に関与する人に対して適切な高低の程度を表す方式)
	이정복 (2012 : 16)	다른 사람을 높여 대우하기 위한 언어형식들의 사용 방식과 체계 (他者を高めて待遇するための言語形式の使用方式と体系)
日本語	文化庁 (1971 : 6)	表現の送り手(話し手)が、話の受け手(相手)や話材の人(話題の人)に対する敬意をていねいな言い方によって示すことばで、言語形式の上で法則性をもつもの
	辻村 (1977 : 64)	敬意を表すことば
	浅田 (1996 : 21)	動作主や動作の受け手、聞き手にうやまう気持ち、つまりプラスの敬意を表すもの
	菊地 (1997 : 91, 2010 : 17)	同じ事柄を述べるのに、述べ方を変えることによって敬意あるいは丁寧さをあらわす、そのための専用の表現

韓国語と日本語の敬語研究を見ると、敬語とは何であるかが様々に説明されている。韓国語では人を「高める」と表現するが、日本語では人に「敬意を表す^{注3}」といった表現が典型的に出現する。しかし、日本語における敬意とは、「上位待遇意識」であり、上位待遇とは「相手や話題の人物を上位者、優位者、恩恵者、疎遠者等敬語的に上位として扱うことを意味するものである」といった説明が与えられている（辻村 1977：49）。つまり、両言語における敬語とは、他者を自分より高いところ、上位に置くことばであるという認識は、共通しているのである^{注4}。本稿では、韓国語と日本語の定義は基本的に一致していると考え、以下を、両言語に当てはまる定義とする。

韓日両言語における敬語の定義：他者を自分より上位に置くための言語形式

1.2 敬語の機能

韓国語と日本語の敬語の定義に関する認識は一致しているが、敬語の使われ方や果たす機能は必ずしも一致するとはいえない。本節では、先行研究で敬語の機能がどのように説明されてきたかを概観する。先行研究で認識されている敬語の機能を表2に示した。

表2 韓国語と日本語の敬語の機能^{注5}

	出典	機能
韓国語	남기삼 (1981 : 14)	①개인적 인간관계에서 자기 위치의 확인 (個人的な人間関係での自己の位置の確認) ②상대편과 일정한 거리를 유지 (相手側と一定の距離を維持)
	서정수 (1984 : 7)	①인간적 상하 관계의 표출 (人間的上下関係の表出) ②횡적 친소 관계의 표출 (横的親疎関係の表出) ③인간품위를 드러냄 (人間の品位を表す)
韓国語	한길 (2002 : 21)	①말할이가 발화 관련자에 대한 수직적 거리를 나타낸다 (話し手が発話関連者に対する垂直的距離を表す) ②말할이가 발화 관련 당사자에 대한 심리적 거리를 나타낸다 (話し手が発話関連の当事者に対しての心理的な距離を表す)
	성기철 (2007 : 28-29)	①상하를 표현 (上下を表現) ②친소를 표현 (親疎を表現)
日本語	大石 (1975 : 57-68)	①아가めの表現 ②へだての表現 ③あらたまりの表現 ④威厳、品位、軽蔑、皮肉の表現
	南 (1987 : 12)	①相手または話題の人を高めて扱う ②相手または話題の人を社会的に心理的に遠いものとして (なれなれしく近づかないように) 扱う ③その場の状況などをあらたまったものとして扱う
	辻村 (1977 : 50-60)	1. 対人関係の条件 ①上下関係 ②恩恵・負い目の関係 ③力関係 ④親疎関係 2. 場面的条件 ①公的場面 ②間接的場面 3. 自己指向の敬語 ①品格維持の敬語 ②自敬表現
	菊地 (1997 : 36-39)	①上下②丁寧③改まり④上品

共通して認識される機能は（１）上下関係を表す、（２）親疎関係を表す、の二つである。（３）自分の品位を表す、および（４）自敬、皮肉、軽蔑を表すという二つの機能は、（１）と（２）が特定の文脈において持つ効果と捉えることもできるだろう。

（４）自敬、皮肉、軽蔑を表す、（５）場の改まりを表すという、日本語の敬語研究で述べられている二つの機能は、上に取り上げた韓国語の敬語研究では直接的に言及されていないが、韓国語においてもみられる。おそらく、これらは（１）（２）が特定の文脈において獲得する効果であり、本質的というより応用的であると考えられ、機能を述べる際に言及されなかったのであろう。

敬語は韓国語でも日本語でも上下関係、親疎関係に関する話者の認識を示し、人間関係を円滑化するために用いられる。使用文脈においては自敬や皮肉、軽蔑を表し、また、特定の人間関係というより発話場の改まりを表すこともある。

韓日両言語における敬語の機能：

- （１）他者を上位であることを表す。
- （２）他者と距離があることを表す。
- （３）話し手の品位、品格を表す。
- （４）自敬、皮肉、軽蔑することを表す。
- （５）敬語使用場面であることを表す。

1.3 敬語の種類

敬語は、韓国語においても日本語においても、いくつかの種類がある。本節では、韓国語と日本語の敬語の種類を概観する。

韓国語の敬語の種類は一般的に、尊敬語、謙讓語、丁寧語の３種類がある。研究によって用語の違いも見られるが、同じことを意味する。また、고영근・구본관 (2018) のように、공대법 (恭待法) と존비법 (尊卑法) の２種類に分類することもできる。表3に韓国語の敬語の種類と用語を示した。

表3 韓国語の敬語の種類と用語

出典	尊敬語	謙讓語	丁寧語
학교문법 (学校文法)	주체높임법 (主体高め法)	객체높임법 (客体高め法)	상대높임법 (相手高め法)
서정수 (1984) 성기철 (2007) 김태엽 (2007)	주체대우법 (主体待遇法)	객체대우법 (客体待遇法)	청자대우법 (聴者待遇法)
한길 (2002)	주체높임법 (主体高め法)	객체높임법 (客体高め法)	듣음이 높임법 (聞き手高め法)
고영근・구본관 (2018)	존경법 (尊敬法)	겸손법 (謙遜法)	존비법 (尊卑法)
	공대법 (恭待法)		

日本語の敬語についても、一般的に尊敬語、謙讓語、丁寧語の3種類が認識されている。しかし、辻村（1977）などでは素材敬語と対者敬語の2種類に、文化庁（2007：13）では尊敬語、謙讓語、丁寧語、美化語の5種類に分類している。表4に示す。

表4 日本語の敬語の種類^{注6}

2種類	3種類	5種類
素材敬語	尊敬語	尊敬語
	謙讓語	謙讓語 I
対者敬語		丁寧語
		丁寧語

韓国語には、日本語の美化語と丁寧語に対応する形式はない。美化語は、日本語に関する研究でもこれを敬語とするものとししないものがある^{注8}。丁寧語は、向かう先がない場合にも用いられる点で謙讓語と異なるが、「いずれも行為の主体をへりくだって表現するという点で共通する機能をもつ（日本語記述文法研究会 2009：257）」ため、敬語に3種類を認める最も一般的な分類では、謙讓語に含まれる。

韓日両言語の敬語について一般的な分類を表5に示す。

表5 韓日両言語における敬語の種類

공대법 (恭待法) 素材敬語		존비법 (尊卑法) 対者敬語
존경법 (尊敬法) 尊敬語	겸손법 (謙遜法) 謙讓語	존비법 (尊卑法) 丁寧語

以下、韓国語と日本語の敬語の定義・種類が先行研究においてどのように捉えられているかをまとめる。

韓国語の敬語の種類^{注9}

고영근·구본관 (2018：533、539)

- 공대법 (恭待法) : 남을 존경하거나 자기를 낮추는 언어예절 범주
(他者を尊敬したり自分を低めたりする言語礼節の範疇)
- 존경법 (尊敬法) : 화자가 자기보다 높다고 생각하는 인물을 높이는 문법 범주
(話者が自分より高いと思う人物を高める文法範疇)
- 겸손법 (謙遜法) : 화자가 남에 대하여 자신을 낮추어 말하는 문법적 절차
(話者が他者よりも自分を低く言う文法的手続き)
- 존비법 (尊卑法) : 상대방의 사회적 지위에 따라 선택되는 말씨의 높낮이
(相手の社会的地位によって選択される言葉遣いの高低)

素材敬語：表現の素材（人物、事物、事柄）に関する敬語

尊敬語：表現主体（話し手・書き手）が上位者として遇する人物の事物・動作・状態等について言う敬語

謙讓語：表現主体（話し手・書き手）が上位者として遇する人物に対する者（表現主体自身を含む）の事物・動作・状態等について言う敬語

美化語：上下・尊卑といったとらえ方ではなく、話題の事物・事柄を美化して言うもの
対者敬語：対者（聞き手）への直接的敬意表現の敬語

辻村 (1977) は、敬語の定義を述べる際には「敬意を表す」「上位待遇する」という表現を用いる一方、敬語の種類の変遷では「敬意」や「上位」は前提となっており、敬語の種類の変遷にはこういった用語は用いていない。韓国語では敬語の種類の変遷にも「尊敬」「高める」「低める」という表現が用いられる。また、韓国語の素材敬語は尊敬語と謙讓語のみであるため、日本語の人物に関する敬語に当たる。日本語の素材敬語のうち、尊敬語・謙讓語は韓国語と同様に上位者と話者に関する認識を示す。美化語は、特定の上位者の存在を前提としていない。

1.4 まとめ

以上に概観した通り、韓国語と日本語の敬語の定義、機能、種類は概ね類似しており、様々な角度から多くの対照研究が行われてきた。韓日ともに敬語は、話し手が他者あるいは言語の使用場をどのように認識しているかを示すもので、韓国語を使用される社会においても日本語を使用される社会においても、人間関係を良好に保って生活するために不可欠である。韓国語を母語とする日本語学習者は日本語の敬語を使用することに対して抵抗はないが、敬語使用を促す判断が韓日で共通している場合もあればそうでない場合もあるため、韓国語と同じ判断に基づいて日本語の敬語を使用すると、使用者の意図に反する芳しくない印象を与える結果となることがある。

2. 敬語の韓日対照研究の状況

本節では、これまで行われた韓日対照研究を概観する。先行研究は、対象とした範囲によって、敬語全体を扱ったもの、素材敬語（尊敬語と謙讓語）を扱ったもの、尊敬語を扱ったもの、謙讓語を扱ったもの、対者敬語を扱ったものに大別できる。「敬語」という語は、敬語全般を示す場合もあれば、素材敬語、対者敬語、尊敬語、謙讓語のような特定の用法に言及している場合もある。先行研究の研究対象によって整理した結果を表6に示す。

表6 韓日対象研究の対象別分類

・敬語 (1) 서정수 (1984) (2) 梅田 (1989) (3) 荻野他 (1990) (4) 白同善 (1993) (5) 曹美庚 (2003) (6) 韓美卿・梅田博之 (2009) (7) 辛昭靜 (2009)	
・素材敬語 (1) 金珍娥 (2019)	・対者敬語 (スピーチレベル) (1) 金珍娥 (2002) (2) 李恩美 (2008) (3) 申媛善 (2007) (4) 金アラン (2017) (5) 金兌妍 (2020) (6) 金兌妍 (2022)
・尊敬語 (第三者敬語) (1) 荻野他 (1991) (2) 우메다 (1992) (3) 金順任 (2001) (4) 김순임 (2008) (5) 金兌妍 (2023)	・謙讓語 (1) 한미경 (1996) (2) 金志姫 (2015)

以下、それぞれの先行研究を概観する。

2.1 敬語全体に関する対照研究

敬語全体について分析した代表的対照研究として、以下の(1) - (7)を取り上げる。

(1) 서정수 (1984) : ①敬語の体系や表現形式、②謙讓語の衰退の方向性、③敬語の用言の接尾辞の単一化の方向性という点において、韓日の敬語体系や発達過程が類似していることを明らかにした。

(2) 梅田 (1989) : 日韓の敬語の特徴的な相違を明示した研究である。①韓国語と日本語の素材に対する敬語は尊敬語と謙讓語に分類できる、②韓国語の謙讓語は限られた用言に対する形式と謙讓語の恩恵表現「V-어 드리다」を用いる、③日本語には美化語があり生産的形式があるが、敬語とはいえない、④韓国語では助詞の敬語形式があると述べた。また、敬語の使い方について、①素材敬語は敬語使用の絶対条件ではない、②韓国語では親しい関係でも敬語を使うが日本語では使わない、③韓国語は対象人物が上か下かで敬語を使うのに対し、日本語では聞き手を配慮して決めるというという知見を示し、韓国語は一部相対的な面があるものの絶対的な面が強いのに対し、日本語は相対敬語であることを明らかにした。

(3) 荻野他 (1990) : 大学生を対象とする大規模な調査を行い、特に、聞き手による使用の様相の違いを実証的に示した。主な知見は、①両国の敬語使用の基本構造は本質的に共通である、②家族以外では、韓国では話し手の年齢差を重視するのに対し、日本では社会的役割や親疎関係が重視される、③韓国の敬語体系は日本より複雑で、しかもそれらは細かい使い分けがされている、④日本では女子がより丁寧な使い方をするのに対し、韓国では反対になっている、などである。

(4) 白同善 (1993) : 一般的に韓国語は絶対敬語で日本語は相対敬語と言われるが、韓国語にも相対敬語的側面があり、日本語にも絶対敬語的側面があることを指摘した。

(5) 曹美庚 (2003) : 様々な言語の中でも特に韓国語と日本語は敬語表現を有する共通した特徴を持つが、韓国語は絶対敬語、日本語は相対敬語の方向に発達している点が大きな違いであると述べた。

(6) 韓美卿・梅田 (2009) : 韓国と日本のテレビやドラマの多様な場面での会話を素材として、韓日の敬語行動を比較した。韓国語の敬語行動の特徴として、①敬語が礼儀を表す、②敬語使用基準は年齢である、③どんなに偉い人でも自分より年齢が上の人に敬語を使わなければ無礼な人間と非難される、④第三者に対して敬語を使う際には聞き手側をあまり意識しない、といった点が指摘された。日本語の敬語行動の特徴として、①敬語が相手への配慮を表す、②場面を重視して敬語行動を行う、③自分の品位を表すために敬語を用いる、④敬語を使う要因は力、恩恵、社会的地位である、⑤第三者敬語は聞き手を考慮し敬語使用を決めることが指摘された。ただし、韓国語でも日本語と同様に、聞き手への配慮や場面、社会的要因も重視されるようになり、高齢者が若い人に対しても丁寧体を使う傾向が見られるようになってきているという観察も述べられている。

(7) 辛昭静 (2009) は大学生を対象にアンケート調査を行い、親しくなりたい先輩や友達に対する敬語使用の状況を分析した。その結果、韓国人大学生は親しくなりたい先輩に敬語を使用する傾向があり、一方、日本人大学生は敬語使用を回避する傾向があることを明らかにした。すなわち、韓国語では、敬語使用が先輩との距離を縮めると認識されており、日本語ではそうした効果はない、あるいは逆効果があると認識されていることが示された。

2.2 素材敬語に関する対照研究

素材敬語には尊敬語と謙讓語と美化語がある。韓日対照研究では、素材敬語を全体的に分析したもの、尊敬語のみ、謙讓語のみを分析したものがある。韓国語には美化語がないため、美化語のみを扱ったものはない。

2.2.1 素材敬語全体に関する対照研究

素材敬語全体を扱った研究はあまり例がないが、金珍娥 (2019) を挙げることができる。この研究は、初対面場面での会話をもとに、韓日両言語の素材敬語の使用状況を比較した。その結果、①全体の発話中、素材敬語使用率は韓国語では8.4%、日本語では1.5%である、②使用された敬語には韓国語は文法的、日本語は語彙的なものが多い、③日本語と韓国語で素材敬語使用率が異なる要因として、質問する際に、日本語では敬語使用が回避される傾向があるが、韓国語では敬語が積極的に使用されていることが挙げられる、④使用される敬語の種類として、韓国語では尊敬語が90%以上を占めるが、日本語では尊敬語、謙讓語、美化語が均等に用いられる、⑤韓日両言語で、上位者が下位者より敬語を使う傾向がある、といった知見が提示された。

2.2.2 尊敬語に関する対照研究

尊敬語に関する対照研究は、主に、第三者に対する敬語、すなわち、目の前にいない人物に関して敬語を使うか否かに注目して行われている。代表的な5つの研究の概要を以下に述べる。

(1) 荻野他 (1991) : 大学生を対象にアンケート調査を行い、韓日両言語の第三者に対する敬語使用を分析した。その結果、①第三者に対する敬語を用いる際、韓国語では話し手と第三者との関係をもとに敬語を用いるが、日本語では聞き手に配慮して第三者敬語の使用を決める、②父親に対して、韓国語では敬語を使うが日本語では使わない、③日本語では授受動詞が敬語の使用に関与するが、韓国語では関与しない。といった点を明らかにし、日本語は相対敬語で韓国語は絶対敬語の傾向が強いことを再確認した。

(2) 우메다 (1992) : 朝鮮語と日本語の第三者敬語の用法差について、①韓国語は第三者に対して敬意を表すが、日本語は聞き手に対する敬意を表す、②父母に対し、朝鮮語では敬語を用いるが日本語では用いないという特徴を示した。

(3) 金順任 (2001) : 大学生を対象にアンケート調査を行い、韓日両言語の聞き手と第三者に対する敬語表現を比較した。その結果、韓国語の特徴として、①聞き手に対する敬意を示すには、丁寧語より尊敬語の役割が大きい、②第三者敬語の相対敬語化が少しずつ進んでいる、③若い人に対して、教育効果のために上位者がわざと第三者に対する敬語を用いる現象がみられることが明らかになった。また、日本語の特徴として、第三者敬語の相対敬語化現象が起きていることを観察した。さらに、女性には敬語使用、男性には敬語抑制の傾向が韓日両言語に共通して見られることも明らかにされた。

(4) 김순임 (2008) : アンケート調査と会話資料をもとに、第三者に対する敬語使用の様態を観察した。その結果、①韓日両言語で、目の前の人を優先しつつ第三者に対する敬語を用いる、②日本語では第三者敬語の対者敬語化がかなり進んでおり、韓国語でも絶対敬語の相対敬語化が少し進んでいるという知見を示し、③韓国語では今後日本語のような第三者敬語の対者敬語化がさらに進むだろうと予測した。

(5) 金兌妍 (2023) : 日本語に関する秋元 (2005) の調査と並行する調査を韓国語で行い、韓国語の第三者敬語の使用状況を観察した。韓国語では、①第三者敬語に対する素材敬語の対者敬語化が김순임 (2008) の時点より進んだ、②聞き手が友人で第三者の先生について話す時、第三者の先生に対して半数以上が尊敬語を選択した、③압존법 (圧存法) を適用した表現よりも絶対敬語を適用した表現のほうが多く選択されたという結果を示し、これに基づいて、韓国語において第三者敬語に対する素材敬語の対者敬語化が今後さらに進むかどうかは確実ではないと結論づけた。

2.2.3 謙讓語に関する対照研究

日本語には謙讓を示すための生産的形式があるが、現代韓国語では謙讓は限られた数の語彙によって示されるに留まる。そのため、謙讓語に関する対照研究は乏しい。

(1) 한미경 (1996) : 日本語の謙讓語文を韓国語に訳し、日本語の謙讓語が韓国語ではどのようなになるかを分析した。その結果、①日本語の謙讓語は韓国語では「-해 드리다」と訳されるものが多い、②日本語の「いただく」は韓国語では尊敬語表現として訳されることが多いことがわかった。

(2) 金志姫 (2015) : 上記 (1) と同様に、日本語の謙讓語が韓国語のどのような表現

に対応するかを、日本語の小説と韓国語の翻訳本を用いて観察した。分析の結果、①日本語の「お(ご) - する」は韓国語の「-아/어 드리다」に対応する、②単独で使用可能な動詞の場合は「- 겠 -」に対応する、③「お + 謙讓表現 + する」は韓国語の「-아/어 드리다」と「- 겠 -」を合わせた表現に対応する、④「お(ご) - する」に対応する韓国語の「-아/어 드리다」には恩恵は含まれない、といった点を明らかにした。

2.3 対者敬語に関する対照研究

対者敬語に関する研究は、その多くが「スピーチレベル」に着目して分析されている。対者敬語が用いられたと見なされるのは、韓国語では「해요/합니다体」、日本語では「です/ます体」が用いられた場合である。対者敬語の一時的な変化は「スピーチレベルシフト¹⁰」、対者敬語を使う関係から使わない関係になるまでの対者敬語の経時的変化は「基本的スピーチレベルの変化¹¹」と呼ばれる。以下、6つの研究を概観する。

(1) 金珍娥 (2002) : 年齢差があるように設定された初対面の話者の会話を用いて、韓日両言語の対者敬語の使用の変化を観察した。ここで観察された変化とは、発話内の一時的な変化である。対者敬語の不使用から使用への変化を「Up シフト」、使用から不使用への変化を「Down シフト」、変化なしを「No シフト」とし、その出現を数えた。その結果、①年齢差のある相手と会話する際、日本語では互いに対者敬語を用いたが、韓国語では上位者は対者敬語を用いず、下位者は対者敬語を用いる傾向があった、②日本語では年齢に差がある人には対者敬語を用いて同じ年の人には対者敬語を用いなかったが、韓国語では同じ年でも対者敬語を用いる頻度が日本語より高かった、③対者敬語の使用・不使用は、日本語では年齢とは関係せず、韓国語では年齢と関係した、④日本語では相手が対者敬語を使えば自分も使う傾向があるが、韓国語では相手に合わせなかった、⑤対者敬語の部分が言語化されない、中途終了型発話が日本語で韓国語の2倍の頻度で出現した、⑥韓国語で「해요体」より格式が高いとされる「합니다体」が皮肉、冗談といった効果を意図して用いられた。

(2) 李恩美 (2008) : 金珍娥 (上掲) と同様に、年齢差があるよう設定された初対面の話者の会話を用いて韓日両言語の対者敬語の使用を観察したが、結果に若干の違いがみられる。金珍娥 (上掲) では対者敬語を用いたり用いなかったりする変化が日本語においてより頻繁に見られたが、当該研究では韓国語のほうが変化の頻度が高かった。また、日本語でも対者敬語の一時的変化に年齢が反映された。このように、(1) と一致しない結果が示された。

(3) 申媛善 (2007) : 初対面で対者敬語を用いた話者と対者敬語を用いない関係になる対者敬語の変化を明らかにするため、初対面の話者同士を3回合わせるという縦断的観察方法を用いた。韓国語では時間を経ても対者敬語を維持したのに対し、日本語では時間の経過とともに相手の変化と合わせながら徐々に不使用に変化したという結果を提示している。

(4) 金アラン (2017) : 対者敬語を使わない親しい関係において、一時的に使用する要

因を分析した。韓国語では相手との心理的距離を置く場合に、日本語では心理的距離を置く場合と距離を縮める場合の両方で対者敬語を用いること、また、場面を切り替えたりお礼や謝罪を述べたりする際には両言語で対者敬語が現れること、さらに、日本語では発話場面や話題を真面目に捉えていることを表す際に対者敬語が用いられる、という観察を示した。

(5) 金兌妍・松村 (2020) : 初対面の大学生同士の会話を分析し、対者敬語の使用から不使用に切り替わる際の基準が韓日では異なることを明らかにした。日本人大学生は学年のみを確認するが、韓国人大学生は単純に年齢を重視し、加えて年齢に関わる諸情報 (入学年度、早生まれ、住民登録上の生年) まで確認した。

(6) 金兌妍 (2022) : 韓日両言語の初対面の大学生同士の会話を分析し、対者敬語を用いる話し方から用いない話し方に切り替わる際の様態を明らかにした。韓国語では対者敬語を用いなくていいかを口頭で明示的に確認したうえで変化が生じるが、日本語では明示的な確認はなされず、互いが徐々に対者敬語を使わなくなる。変化にいたるそれぞれの手続きを「明示的交渉」と「暗示的交渉」と名付けた。

2.4 まとめ

これまでに行われた敬語使用に関する対照研究では、対象人物や場面を設定し、韓日両言語の敬語使用の有無が観察・分析されてきた。その結果、基本的特徴として、韓国語は絶対敬語、日本語は相対敬語といえる、敬語が使用される範囲 (対象) は韓国語では家族や親しい人をも含み、日本語よりも広い、敬語を使用する基準は、韓国語では年齢、日本語では社会的地位である、第三者に対する敬語使用については、韓国語では絶対敬語的な側面と相対敬語的な側面が両方見られるのに対し、日本語では目の前の聞き手を意識した相対敬語である、といった重要な知見が提出された。

3. 敬語に関する韓日対照研究における課題

敬語に関する韓日対照研究の多くは、一定の発話場面において一方の言語では敬語が出現するがもう一方では出現しないといった、敬語の使用有無に着目しており、日韓の敬語体系や会話における使用における差異について多くの有用な知見が提出された。しかし、韓国語母語話者が日本語を使用するための手引きとしては、更なる研究によって補完されるべき点が残っている。

今後の研究に求められることの一つは、両言語における「丁寧」の戦略を総合的に観察し、その中で敬語の位置付けを観察することである。相手との関係性の構築や維持を意図して話をする際に、両言語の話者はどのような言語資源をどのように利用するのか。敬語は其中でどのように使用されるのか。他の戦略や資源と二者一択的に使用される傾向と並行的に使用される傾向のどちらが強いのか。このような、言語使用を全体的に捉える観察が必要である。さらに、「相手を自分より上に置く」ことにおいて話者は自己をどのようなものとして表現しようとしているのか、といった価値観が明らかにされる必要もある。

なぜなら、意見や感情の交流を意図する定型的でない発話において、敬語を使用するか否か、どのような敬語を使用するかについての判断は付きにくいためである。

特に喫緊の課題であると考えられるのは、「恩恵表現」との関わりを観察することである。日本語の素材敬語には尊敬語と謙譲語の2種類が存在し、それぞれに恩恵を示す語が連動する「くださる」「いただく^{注12}」「さしあげる」がある。辻村（1977：66）は「『お寄りになりませんか』と言って勧誘するのと、『お寄り下さいませんか』と言ってすすめるのでは、同じく尊敬表現でも、後者の方がより丁寧な印象を与えることになる」、「話し手は、実際には為手の動作が自己に恩恵を与えてくれることのない客観的なものであっても、あたかも恩恵を与えてくれる動作であるかのごとく言いなし、それがより敬語的な表現として成立するという事実に注目したい」と述べ、恩恵表現を敬語として注目すべきである点を強調している。また、因（1997：125）は、日本語では上下差だけを示して恩恵を示さない表現「先生の論文は全てお読みしました」は不適切で、「先生の論文はすべて読ませていただきました」など恩恵を受けたことを示せる恩恵表現にすべきだと述べている。このように、敬語使用場面で敬語を適切に操作できる技能を涵養するには、敬語の使用・不使用だけでなく、他の表現手段との関係や通底する価値観に関する情報が提供されなければならない。

今後、敬語が使用されるかどうかという二者一択的視点でなく、敬語に伴ってどのような戦略が使用されるか、何が好まれるか、それは何故かといった点に目を向け、表現の傾向や志向性を明らかにしていけば、学習者をよりよく支援するために有用な知見が生み出されることが期待できる^{注13}。

注

注1 韓国語から日本語への翻訳は筆者による。

注2 환길（2002：21）では2回言及されたものをもとに筆者がまとめて書いた。

注3 辻村（1977）は話し手が敬語を用いることについて、「表現主体は必ずしも敬意を持っているとは限らない（p.48）」、「敬語によって表される敬意とは、それよりも、相手や話題の人物に対する表現主体の上向関係の認識に基づくものであるとするのが敬語使用の実態に即したものと見えよう（p.49）」と述べる。つまり、敬意は話し手の気持ちを表すものではなく、人間関係に対する認識の反映である。大石（1975：62）、南（1987：130）、성기철（2007：10）にも同様のことが指摘されている。

注4 蒲谷（2014）は日本語敬語について説明する際に「高くする敬語」「相手や人物を高める」と述べており、日本語でも韓国語の敬語の定義で用いた「高い」という表現が用いられている。

注5 各先行研究から必要な点を筆者が抜粋し、整理した。下線は筆者による。①②などの番号は引用のままと筆者がつけたものがある。

注6 文化庁（2007）と辻村（1977）をもとに、筆者が作成した。

注7 辻村（1977）では美化語は素材敬語に含まれる。

- 注8 菊地（1997：354-355）では「美化語は一般には敬語に数えられているが、実は、敬意の表現でも、聞き手への丁寧さの表現でも本来ない。私見では、最も狭い意味での敬語には含めなくてもよいように思う」と書かれている。梅田（1989：3）や菊池（2010：107）にも同様のことが指摘されている。
- 注9 韓国語から日本語への翻訳は筆者による。
- 注10 金珍娥（2002）、李恩美（2008）、金アラン（2017）などで用いられた。
- 注11 金兌妍（2022）で用いられた。
- 注12 韓国語にはない。
- 注13 敬語研究ではないが、表現の差に注目した韓日対照研究として金恩愛（2003）と金庚芬（2012）がある。

参考文献（アルファベット順）

- 秋元祐哉（2005）「現代日本語における待遇表現の研究—素材敬語の対者敬語化について」『埼玉大学国語教育論叢／埼玉大学国語教育学会編』8, 16-23, 埼玉大学国語教育学会.
- 浅田秀子（1996）『敬語マニュアル』南雲堂.
- 白同善（1993）「絶対敬語と相対敬語：日韓敬語法の比較」『世界の日本語教育：日本語教育論集』3, 195-207, 国際交流基金.
- 文化庁（1971）『日本語教育指導参考書2 待遇表現』大蔵省印刷局.
- 文化庁（2007）『敬語の指針』文化審議会答申.
- 因京子（1997）「『おVする』の文法」ハバード・坂本・デーヴィス（編）『日本語教育：異文化への懸け橋』117-30, アルク.
- 曹美庚（2003）「日本語と韓国語における敬語表現の比較」『人間環境学研究』2（1）, 105-118, 広島修道大学.
- 한미경（1996）「謙讓語의 韓日兩國語 對照研究」『일본연구』11, 445-465, 한국외국어대학교 일본연구소.
- 韓美卿・梅田博之（2009）『韓国語の敬語入門—テレビドラマで学ぶ日韓の敬語比較』大修館書店.
- 한길（2002）『현대 우리말의 높임법 연구』역락.
- 蒲谷宏（2014）『敬語マスター まずはこれだけ三つの基本』大修館書店.
- 菊地康人（1997）『敬語』講談社.
- 菊地康人（2010）『敬語再入門』講談社.
- 金アラン（2017）「非丁寧体の会話におけるアップシフトに関する日韓対照研究」『일본문화학보』72, 87-112, 한국일본문화학회.
- 金志姫（2015）「日本語の「お（ご）～する」に対応する韓国語の謙讓表現」『일본어교육연구』33, 155-169, 한국일어교육학회.
- 金珍娥（2002）「日本語と韓国語に置ける談話ストラテジーとしてのスピーチレベルのシフト」『朝鮮学報』183, 51-91, 朝鮮学会.

- 金珍娥 (2019) 「日本語と韓国語の談話に現れる <対聞き手敬語表現> を照らす」『朝鮮学報』 251, 43-95, 朝鮮学会.
- 金庚芬 (2012) 『日本語と韓国語の「ほめ」に関する対照研究』 ひつじ書房.
- 金順任 (2001) 「日韓の大学生における待遇表現の対照研究—述語形式及び呼称との呼応関係を中心に—」『言語・地域文化研究』 7, 東京外国語大学大学院地域文化研究科.
- 김순임 (2008) 『한국어와 일본어의 제 3 자 경어의 대조연구』 박이정.
- 金兌妍・松村瑞子 (2020) 「大学生同士の聞き手待遇に関する日韓対照研究—基本的スピーチレベルを選択する際の会話をもとに—」『言語文化論究』 44, 47-65, 九州大学大学院言語文化研究院.
- 金兌妍 (2022) 「聞き手待遇の変化過程に関する日韓対照研究—大学生同士の初対面場面の基本的スピーチレベルをもとに—」『東アジア言語文化論叢』 1, 39-65, 東アジア言語文化研究会.
- 金兌妍 (2023) 「韓国語の第三者敬語に関する一考察—日本語と韓国語の調査結果との比較を通して—」『西南学院大学言語教育センター紀要』 13, 23-35.
- 김태엽 (2007) 『한국어 대우법』 역락.
- 金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造 (nominal-oriented structure) と韓国語の動詞志向構造 (verbal-oriented structure)」『朝鮮学報』 188, 1-83, 朝鮮学会.
- 고영근・구본관 (2018) 『개정판 우리말 문법론』 집문당.
- 이정복 (2012) 『한국어 경어법의 기능과 사용원리』 소통.
- 李恩美 (2008) 「日本語と韓国語の談話におけるスピーチレベルのシフトとポライトネス」『일본언어문화』 13, 207-226, 일본언어문화학회.
- 南不二男 (1987) 『敬語』 岩波新書.
- 남기심・고영근 (1993) 『표준국어문법론 개정판』 탑출판사.
- 남기심 (1981) 「국어 존대법의 기능」『인문과학』 45, 연세대학교 인문과학연구소.
- 日本語記述文法研究会 (2009) 「第 13 部待遇表現」『現代日本語文法 7』 くろしお出版.
- 荻野綱男・金東俊・梅田博之・羅聖淑・盧頭松・福田麻子 (1990) 「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』 136, 1-51, 朝鮮学会.
- 荻野綱男・金東俊・梅田博之・羅聖淑・盧頭松 (1991) 「日本語と韓国語の第三者に対する敬語用法の比較対照」, 『朝鮮学報』 141, 1-42, 朝鮮学会.
- 大石初太郎 (1975) 『敬語』 筑摩書房.
- 서정수 (1984) 『존대법의 연구: 현행 대우법의 체계와 문제점』 한신문화사.
- 성기철 (2007) 『한국어 대우법과 한국어 교육』 글누림
- 辛昭静 (2009) 「日韓大学生の敬語行動比較 —『敬語回避』 焦点を当てて—」『일본연구』 26, 45-62, 한국외국어대학교 일본연구소.
- 申媛善 (2007) 「日本語と韓国語における文末スタイル変化の仕組み—時間軸に沿った敬体使用率の変化に着目して—」『日本語科学』 22, 173-195, 国書刊行会.
- 辻村敏樹 (1977) 「日本語の敬語の構造と特色」『岩波講座日本語 4 敬語』 47-94, 岩波書店.

- 梅田博之 (1989) 「경어에 관한 한일 대조 연구 —절대경어와 상대경어— 『일본학지』 10, 95-102, 계명대학교 국제학연구소.
- 우메다 히로유키 (1992) 「조, 일 두 언어에서의 제 3 자에 대한 경어용법의 비교」 『중국조선어문』 59, 20-25, 길림성민족사무위원회.